

碩心

社団法人 日本詩吟学院 岳風会 認可
 神奈川 碩心 会 発行

12年4月現在 逗子地区計 葉山地区計 大船地区計 (合)	会員数 129名 188名 31名 348名	12年4月 (333号)	発行者 千葉岳関 編集者 白井岳麗
---	------------------------------------	--------------	----------------------

行事予定

○全国優秀吟者(碩心会予選会)

左記の日程で行いますので、多くの方の参加をお待ちしております。

日時・6月11日(日) 18時30分より
 紳 軀・5月30日(火) 指導者講習日

総務部長 松井正岳迄

○神奈川地区吟道大会

平成12年6月25日 海老名文化会館

合吟コンクール出場者が左記の通り決定

男性チーム

- 鈴木義男(滝の坂) 行谷正一(滝の坂)
- 田中喜吉(逗子A) 福本辰男(上山口)
- 一柳良治(逗子A) 広瀬春雄(唐木山)
- 八尾昭夫(吟 秀) 坂本泰治(真 澄)
- 高館 浩(逗子A) 大西保正(堀内F)

女性チーム

- 矢嶋時子(堀内F) 大坪克子(堀内F)
- 加藤芳子(吟 秀) 川口喜美子(一色)
- 根岸啓子(堀内E) 鈴木美佐子(堀内F)
- 鈴木洋子(一色) 駒場咲子(逗子A)
- 金子憲子(逗子A) 菊地君子(逗子A)

○碩心会総会 6月4日(日) 図書館講座室

昇伝認許 (平成12年4月1日付)

おめでとうございます。

初段 (一名)

510 草柳 スミ

二 段 (三名)

503 上村 親子

初 伝 (五名)

499 角田 有泉

492 森 律泉

三 段 (五名)

506 鎗光 幸泉

486 大野 祥泉

四 段 (三名)

505 原 富泉

中 伝 (二名)

456 宮崎 京山

五 段 (四名)

441 野邑 里山

416 井上 哲山

六 段 (七名)

509 森田 祐山

402 田口 綾山

374 川田 好山

502 鈴木 光代

496 岸川 芳泉

479 中司 祥泉

490 前田 宏泉

485 山盛 暉泉

478 中村 瑞泉

475 熱田 芝泉

487 角田 玲泉

494 宗 環泉

425 菊地 君山

420 大西 雄山

508 米山 廣山

403 越水 悦山

384 齊須 淳山

400 中尾 廣山

奥伝 (一名)

356 新井 国風

七段 (五名)

466 齊藤 誠風

318 町田 紀風

316 池田 昭風

315 長谷川 幹風

314 下村 佳風

八段 (五名)

440 風間 房風

280 鈴木 祐風

274 松岡 杏風

283 澹橋 正風

273 原田 義風

伝号に示す岳風流吟法の精神

今回掲載の次の記事は、碩心会の姉妹会である山形県寒河江吟友会の会報より転載させていただきます。

(平成11年9月10日 第百三十号)

寒河江吟友会 安 食 師 岳

祖宗範木村岳風先生は、岳風流吟法を会得させるために『伝号』に用いられている不動文字によって吟法の精神を示されました。

伝位が昇段するたびに、あまり深く考えなくなつた最近の風潮に、ひとしお寂しさを感じます。

そこで、祖宗範が私達に示された岳風流吟法の成長、発展課程を再度『伝号』ごとに自

覚してみる必要があると思います。

初伝を『泉』、中伝を『山』、奥伝を『風』、皆伝を『○岳』(下岳という)、総伝を『岳○』(上岳という)という伝号の配列を用いています。これは単なる好きな文字を配列したのではなく、大自然の生きた姿、生成発展の生命を修練の課程におきかえ、無言の中に岳風流吟法の心構えの感化をねらつたものとされています。

その大自然の現象による吟法成長を『木村岳風伝』で次のように解説しています。

初伝(泉号)

地下水が『泉』となつて湧きいずるところにこれを見立て、生命現象の根源から修道の歩を進める。一步一步高きを求め、且つ登つて次第に下界を離れた所を中伝に見立て山にいたる。

中伝(山号)

山も次第に厳しくなり、登るにつれて眼界はいよいよ開け、一眺千里山風起る。

奥伝(風号)

山風が吹き、鞋底より雲を払い、まさにこのとき風に浴するとき、天地の境の

感を覚ゆる。これを奥伝の境地に見立てている。

皆伝(下位岳号)

更に歩を進めるにつれて、いよいよ高くけわしく、難路も多く岩石、山となつて草木また稀にしか見られなくなる。又山岳の性質を帯びる頃、来たる者また吟道の範たる者となる。

総伝(上位岳号)

これらの経験を通り過ぎて更に精進と努力を続け、常に後進の範たる者を上位岳として、これを総伝と見立てて栄達せしめる。

この頃ようやく山の嶺に近く、白雲去来し、万年雪を戴く、その崇高なること他に例え難い。

祖宗範木村岳風先生は、岳風流の遺風、そして吟道に励むための『地歩』は、この伝号に示された不動文字を理想として遺されているのです。

私達は、この『伝号地歩』の意味を吟道精神の根底に置き精進すべきものと思います。

(原文のまま)

審査の心がまえ

加藤 岳相

私達日本詩吟学院岳風会の会員は、各伝、段位の許証を戴くには誰もが審査と言う関門を通らなければなりません。

審査は総本部審査委員会から委嘱された各認可団体の審査代行者によって行われておりますが、私が審査代行者に任命されてより10年、傾心会はもとより、各会より依頼されて審査会に出席させていただいておりますが、審査会は各会の年中行事の一つです。会場の定員が許す限り審査を受ける人だけでなく、多くの会員が出席してほしいと思っております。

受審者は開始時より少し早目に行き、会場の雰囲気になれること、発表する課題の吟は何回も履習することです。私達の先輩の言葉に、大勢の人の前で吟ずるには、300回位やらなければ駄目だと言われました。又あがつてしまつてよく出来なかつた等の言葉を聞きませんが、それは自分の練習不足の結果です。多く練習すれば自信が付き、落着いて出来るものです。又温習会、大会等には進んで出吟し

大勢の前で吟ずることによって舞台に出ても動じない自信をつけることです。

発声は母音の口の開きを正確にして大きく開き発声する習慣をつける。腹式呼吸で吸排する練習をする。それによつて声量が出、声にのびが出るようになります。これらのことは一朝一夕に出来ないと考えますが根気よく続ければ成果はあると思います。誰よりも上手になりたいのは人情です。

この記事を読み、自分にも出来そうなことをやつて見て、次回の審査には今迄より少しでも上達出来たと思う人があれば私としては幸甚の至りです。

~~~~~

「清明」について

暦の二十四気の一つ。

暦の中で春分、秋分は身近かなものですが、更に一年を二十四気に分けたその一つが清明。春分の後十五日目で、四月五日頃にあたる。「万物ここに至つて皆潔斎にして清明なり」といわれる。中国では墓を清掃して祭る日で沖繩でも「清明節」といつてねんごろに墓参りするとのこと。

## 吟道を志す者に必要な三ツの気

松井正岳

昔、父岳洋に言われていたことを、ある先生に聞かれて思い出した。吟道を志す者として、今迄忘れていたことを大変申し訳なく恥ずかしさを覚えた。

同じ志を持つ皆さんにも知つておいて頂きたく投稿させて頂きました。

一、人の神髄にまで沁みとおる強い気魄。

(気魄) 魂、精神力、気力の意

一、壮烈鬼神を泣かしめ、豪快雄偉情夫をして起たしむる気概。

(気概) 意気さかんなこと。気骨、物事に負けない強い意気の意

一、聴く者をして思わず憐れを正さしむる莊重高雅な気品。

(莊重高雅) おごそか、気高く優美

(気品) けだかい品位、気位、上品の意

私は、この「三ツの気」を皆さんと共に忘れることのないよう、今後も吟道に精進したいと思つていきます。

一の谷のいくさ破れ

討たれし平家の公達あわれ

暁寒き須磨の風に

聞こえしはこれか青葉の笛

一の谷の合戦のあわれを書いたものです。

第一節では源氏に追われた平家の若き公卿

平敦盛が討死にする直前まで愛用の笛「青葉

の笛」を吹いていたというあわれを詠み、第

二節では辞世の歌を矢を入れる籠に着けて討

ち取られた平忠度の雅情を語っています。

忠度は戦いの前夜に師、俊成卿を訪ね「さ

ざ波や、志賀の都は荒れにしを、昔ながらの

山桜かな」の歌を託して去った文人武将でし

た。

第二節の「花や今宵」と云う和歌こそ、忠

度の作として広く知られている「行きくれて

木の下かけを宿とせば、花や今宵の主ならま

じ」です。

平忠度の首をはねたのが、源義朝の家人猪

股小平六の一族の岡部六弥太らで、彼らは輝

かしい武勲を鎌倉の頼朝に賞賛されました。

しかし平家の名将に対して、その討ち取りか

たが、卑劣だったことを強く悩み、後悔に耐

えきれず、建久3年11月に一行は知友三浦義

澄を訪ねる途中、葉山の下山川上流の上山口

で自害しました。

上山口小学校を目前に歩くと、猪股小平六、

岡部六弥太の墓が里人によって建てられ、今

でも供養されています。

身近くに二人のお墓があることを知り、陽

気もよい折り、散歩がてらに歩いてみたいと

思います。

葉山在住の宇野喜三郎さんの三浦半島

「路傍の歳時記」より

入会

520 ミツボリ 三浦郡葉山町一色五二一八

(一色) 〇四六八一七五―二八三九

521 林田聖子 三浦郡葉山町上山口二三六九

(唐木山) 〇四六八一七八―八三三一

522 山口重男 三浦郡葉山町木古庭一三〇五

(下山口) 〇四六八一七八―七一五〇

移籍

沼間支部の指導者、兼支部長の清水燿岳先

生は病気のため退会されました。沼間支部は

平成12年3月3日付で解散となり、会員は左

記教場に移籍。

41 渡辺星岳 (逗子A支部松井教場)

78 祐野孝岳 (逗子A支部)

273 原田義風 (逗子A支部)

退会

289 蛭子春風 (一色) 491 角田正風 (堀内A)

166 市原竜風 (沼間) 31 清水燿岳 (沼間)

支部長交替

渡辺岳峰より舟渡岳船へ (逗子A支部)

俳句

佐久間 岳 爽

白鳥の水尾引きあそぶ花筏

最終のフェリー朧の汽笛かな

後藤 道 岳

実朝忌海鳴り遠くまた近く

夕桜百の雪洞灯りそむ

編集後記

今回の4月号には、寒河江の安食師岳先生

の「伝号に示す岳風流吟法の精神」と加藤岳

相先生の「審査の心がまえ」、松井正岳先生

の「吟道を志す者に必要な三つの気」と有益

な記事を沢山いただきました。

いずれも吟の道に必須の大切なことを改め

て認識するために、良い機会になりました。

お手許に置いて幾度も読み、或は保存版と

して大切にご覧下さい。